

九州運輸局メールマガジン 平成24年12月13日 第196号

～九州の明日を拓く運輸と観光～

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

目次

1 九州運輸局ホームページアップ情報（12月6日～12月12日掲載分）

- ・各種情報
- ・各種手続き
- ・分野別情報
- ・報道発表

2 現場レポート

- ・「海の子育成プロジェクト」（来て・見て・学ぼう海事産業！）
～次世代人材育成の『海事教室』を開催しました～

3 九州運輸局セミナー

1 九州運輸局ホームページアップ情報 （12月6日～12月12日掲載分）

----- 各種情報 -----

《入札・契約情報》

平成25・26年度国土交通省（建設工事・測量等）一般競争（指名競争）
参加資格審査申請について

http://www.mlit.go.jp/page/kanbo05_hy_000353.html

----- 各種手続き -----

《海技試験制度・合格者発表》

筆記試験の日程

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kaigisiken/body.htm>

----- 分野別情報 -----

《バス・タクシー・トラック》

バスの申請・処分状況（平成24年11月分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji_bu_ka/bus/bus_syobun2411.pdf

トラックの申請・処分状況（平成24年11月分）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji_bu_ka/truck/truck_syobun2411.pdf

----- 報道発表 -----

第5回トラック輸送適正取引推進パートナーシップ九州ブロック会議の開催に
ついて

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2012-1211-kamotsu.pdf>

2 現場レポート

「海の子育成プロジェクト」(来て・見て・学ぼう海事産業！)

～次世代人材育成の『海事教室』を開催しました～

九州運輸局では、次世代を担う青少年に対し「海・船・港」の大切さ等について体験、学習を通し、青少年に感動とロマンを与え、海事産業に対する興味・関心を持ってもらうことを目的とする「九州海事産業次世代人材育成推進事業」を海事産業関係団体と共に実施しています。

その一環で、大分運輸支局では「海の子育成プロジェクト」として、小学生高学年に対する『海事教室』を平成24年11月30日(金)に開催しました。なお、本教室の開催にあたっては(独)航海訓練所、(一社)日本船長協会、(一社)日本船主協会、(株)フェリーさんふらわあ、(株)大分国際貿易センター、(社)九州海事広報協会、九州地方港運協会、大分県港運協会、大分県港湾管理者、(財)九州運輸振興センター、九州地方海運組合連合会に支援を頂きました。

また、参加校の選定は、大分県南部の海事産業を基幹とする佐伯市の「佐伯海事地域人材確保連携協議会」と協力し、学校側の意欲や生徒数、大分港・別府港までの距離等を検討した結果、佐伯市立蒲江小学校4、5年生と佐伯東小学校5年生に決定したところです。

当日は、両校の児童55名、校長先生2名、引率教師6名の合計63名の参加がありました。なお、大分運輸支局からは引率スタッフとして5名の職員が参加しました。天候は、ほぼ無風で、穏やかな小春日和となり、屋外見学には絶好のコンディションとなりました。

まず午前中は、海上貿易の実態を学習してもらうため(株)大分国際貿易センター職員と、大分県港運協会職員の説明を受けながら、港湾物流の結節点である大分港の「大在コンテナターミナル」で、外航船へのコンテナ積み込み等を行う「港湾荷役(こうわんにやく)」作業の見学を実施しました。子供たちは、普段、コンテナターミナル内に入る機会は無く、ヘルメット着用の上、興味津々の様子で、接岸中の外航コンテナ船、及び、大きな「ガントリークレーン」2基を見上げていました。また、はじめて見る「ストラドルキャリア」が構内を走り回っている姿や、使用していない「20フィート型コンテナ」に入り、その内部の大きさ、頑丈な構造に驚いていました。終了後に「ガントリークレーンは迫力があり、カッコ良かった。キリンみたいに首が長い!」との声が上がっていました。

続いて午後は、別府港に場所を移し寄港中の練習船「銀河丸」において、(独)航海訓練所と、(一社)日本船長協会との共催で開催された「シップスクール」に参加しました。練習船内の見学については、子供たちを4グループに分けたうえで、船橋、無線室、食堂、機関室等の見学を行いました。船のレーダーの仕組みや海図の見方等については、担当の航海士や機関士から懇切丁寧な説明が行われました。特に、船内に装備した「操船シミュレーション装置」では模擬航海の体験があり、子供たちは眼を輝かせながら舵を握って、楽しそうに操船にチャレンジをしていました。

併せて、元・外航船の船長から「海と船のお話」があり、世界の海でどのような船が航海し、どのような貨物を運んでいるか等を、分かり易く話していただきました。

プレス関係では「OBS大分放送」と「大分合同新聞」から取材があり当日夕方のテレビニュースで子供たちの乗船見学の模様が放送されました。なお、翌日の「大分合同新聞」の朝刊には、船内操舵室での子供たちの姿を写した写真付きの記事が掲載されました。記事の内容としては、新聞記者のインタビューを受けた児童が「大きな機械（ガントリークレーン）は迫力があり、かっこよかった。将来は船乗りになりたい。」と元気に答えている様子が取り上げられておりました。

別府港での見学を終えた帰りのバスの中で、本日の感想を聞くと、半数以上の子供たちが「将来は船乗りになりたい！」と声を上げてくれました。見学中は真剣かつ、まじめだった生徒たちも、バス内でのおやつタイムでは非常に小学生らしい反応で、微笑ましい光景が広がりました。なお、我々スタッフへも子供たちよりお菓子のお裾分けがあり、その優しさに心温まりました。こうしてバスは両校に到着して、今回の『海事教室』を無事終えることができました。

我々支局職員はスタッフとして、生徒の送迎や当日のスケジュール調整、「しおり」の作成等々に参加をし、『海事教室』を共に行ったわけですが、子供たちの素直さ、眼の輝きを見てとても新鮮な気持ちになると同時に、このことをきっかけに海事産業に興味を持ち、理解を深めてもらう事が出来たなと感じています。また、両校とも校長先生まで参加する関心の高さや、引率の先生方の熱意には非常に頭が下がりました。先生方には、今回の『海事教室』の体験・学習について、参加が出来なかった他の学年の在校児童にも伝えて頂くよう、また、普段の学校の授業等でも、より一層、海事学習に取り組んで頂くよう働き掛けをしたところです。

日本は、四面を海に囲まれた海洋国であり貿易立国です。日本の未来のためには次世代を担う子供たちに「海の大切さ」を伝えること、及び、優秀な海事人材の確保・育成、船員技術の伝承をすること等が喫緊の課題となっています。大分運輸支局では、今後も積極的に次世代人材育成推進事業に取り組み、子供たちや先生方に対し「海・船・港」や「海事産業」等に関心、興味を持ってもらうよう、広く周知活動に努めて参ります。

当日の様子は下記のURLからご覧いただけます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_196.pdf

【大分運輸支局】

3 九州運輸局セミナー

九州運輸局の各課から業務内容等を紹介するコーナーです。
今回は、海上安全環境部 海技試験官です。

九州運輸局の試験官の執行業務及び活動等について紹介します。

最初に日本人船員を対象にする海技士国家試験が、定期的に年間４回ここ福岡市合同庁舎新館 7 階で行われます。

試験は筆記試験、口述試験および身体検査に分かれて執行します。また定期的に行われている試験とは別に、臨時的に行う試験も執行しています。

今年度においては、受験者側の意向等を踏まえ、４月定期試験において１級筆記試験をそして１０月定期試験においては２級筆記試験を土日の休日に執行しました。

平成 24 年度にここ九州運輸局で行われた定期試験は、以下の通りです。

	筆記開始～口述終了		筆記開始～口述終了
４月定期	４月 10 日～５月 22 日	７月定期	７月 1 日～７月 31 日
10 月定期	10 月 13 日～11 月 20 日	2 月定期	2 月 1 日～3 月 15 日

また試験開催地に出向き、臨時的に執行した試験は以下の通りです。

	筆記開始～口述終了		筆記開始～口述終了
宇城市	6 月 5 日～6 月 9 日	下関市	8 月 7 日～8 月 10 日
宇城市	9 月 4 日～9 月 4 日	宇城市	11 月 27 日～11 月 30 日
本 局	12 月 4 日～12 月 6 日	日南市	12 月 11 日～12 月 14 日
佐世保市	12 月 18 日～12 月 22 日		

次に、新たに水先人（パイロット）となる為の試験を、関門、博多、島原海湾、長崎、佐世保、細島及び鹿児島水先区の各海域別に執行します。この試験も海技士試験と同じように、筆記試験を最初に執行し、その合格者に対して口述試験を執行します。今年度は、５月に３級水先人試験を執行し、そして、翌年の１月に１級水先人試験を執行します。

水先人の試験とは別に、外国籍船の船長に対する水先人乗船免除の制度（PEC 承認）があり、主に関門区内入港船（門司・下関入港の総トン数 3000 トン以上）および関門海峡通峡船（総トン数 10000 トン以上）の船長に対して、筆記試験（英語）と口述試験（日本語）を執行します。今年度は４月に１回目を執行し、１１月に２回目を執行しました。

以上の試験の他に、日本籍船に乗船する為の外国人に対する試験があり、対象船舶を漁船と貨物船に分け執行します。漁船の場合は、ここ九州運輸局で身体検査および口述試験が執行されます。

我が国の海運や漁業を支える船員は、外航海運・遠洋漁業においては相対的に日本人が減少しておりますが、全国的な定期・臨時における海技試験受験者数の傾向としては、ほぼ横ばい状態です。そして、外航海運・遠洋漁業における船員の外国人比率が高まり、そうした人々を対象とした上記のような様々な海技試験を執行しております。

上述の試験業務以外に、試験官の海技知識及び技能を生かして、運航労務監理官を対象に海技に関する研修講義を行い、また、九州の学校関係者や学生を対象に、海上安全環境部が企画している「出前講座」の一講師として、海のプロフェッショナルとしての船舶職員業務を説明する、実経験を主体とした船舶職員の業務

一般についての広報にも貢献しております。

【海上安全環境部 海技試験官】

//////// 編集部より //

毎日寒いですね。この季節になると暖かいものが欲しくなります。暖かい下着。
食なら鍋料理。熱燗も良いですね。

私は温泉が恋しくなります。新鮮な地元の食材を使った食事をして、ゆっくり温泉につかると身体が少しずつほぐれていって幸せな気分になります。体調がすぐれずに訪れても帰る時には改善するほどです。

鹿が見つけたとか、鶴が見つけたとかいう湯が日本には溢れています。地獄谷の猿の入浴は海外でも人気のようです。『湯治』が昔からあるように生き物を復活させるようなエネルギーがあるのかもしれません。九州では湯の色を楽しむことも出来ます。青、赤、泥、白。冷泉、炭酸泉もありますね。

ポジティブ・オフ運動も広まっています。懐具合は寒くなりましたが、温泉で身体と心を暖めるというのはどうでしょう？

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧ください誠にありがとうございます。

編集部では、運輸と観光行政に関する取組や話題、イベントの案内、地域の情報等、本メールマガジンへの掲載記事を広く募集しています。お気軽にご投稿ください。

//

■本メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/top.html

■本メールマガジンの配信中止やメールアドレスの変更などはこちらから

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kouhou_mail.html

■九州運輸局メールマガジン編集部（九州運輸局総務部内）

mail : mm-kyushu@qst.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192